

2012年3月期 決算説明会資料

曾田香料株式会社

代表取締役社長 中地俊朗

目次

- I. 会社概要
- II. 国内香料市場推移
- III. 2012年3月期 連結決算概要
- IV. 2013年3月期 連結通期業績予想
- V. 中期経営課題について
(2012年度～2014年度)

I . 会社概要

会社概要

- 1) 設 立 昭和47年9月(創業 大正4年4月)
- 2) 資 本 金 14億9千万円
- 3) 事 業 所 本社(東京都中央区日本橋堀留町)
野田工場(千葉県野田市)、郡山工場(福島県郡山市)
大阪支店、札幌営業所

4) 関係会社

- 連 結 子 会 社 岡山化学工業(株)、(株)ソダアクト
台湾曾田香料(股)有限公司
曾田香料(昆山)有限公司
- 持分法適用非連結子会社 遠東香料(股)有限公司

5) 従業員数(2012年3月末 有価証券報告書基準)

- 連 結 414名
単 体 292名

6) 事業内容

フレグランス（香粧品香料）

シャンプー・リンス、石鹸、芳香剤、入浴剤等を使用



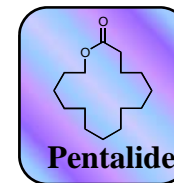
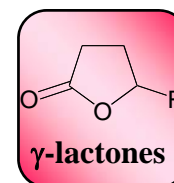
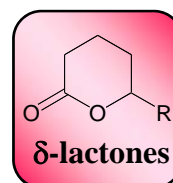
フレーバー（食品香料）

飲料、菓子、調味、たばこ、飼料等を使用



合成香料・ケミカル

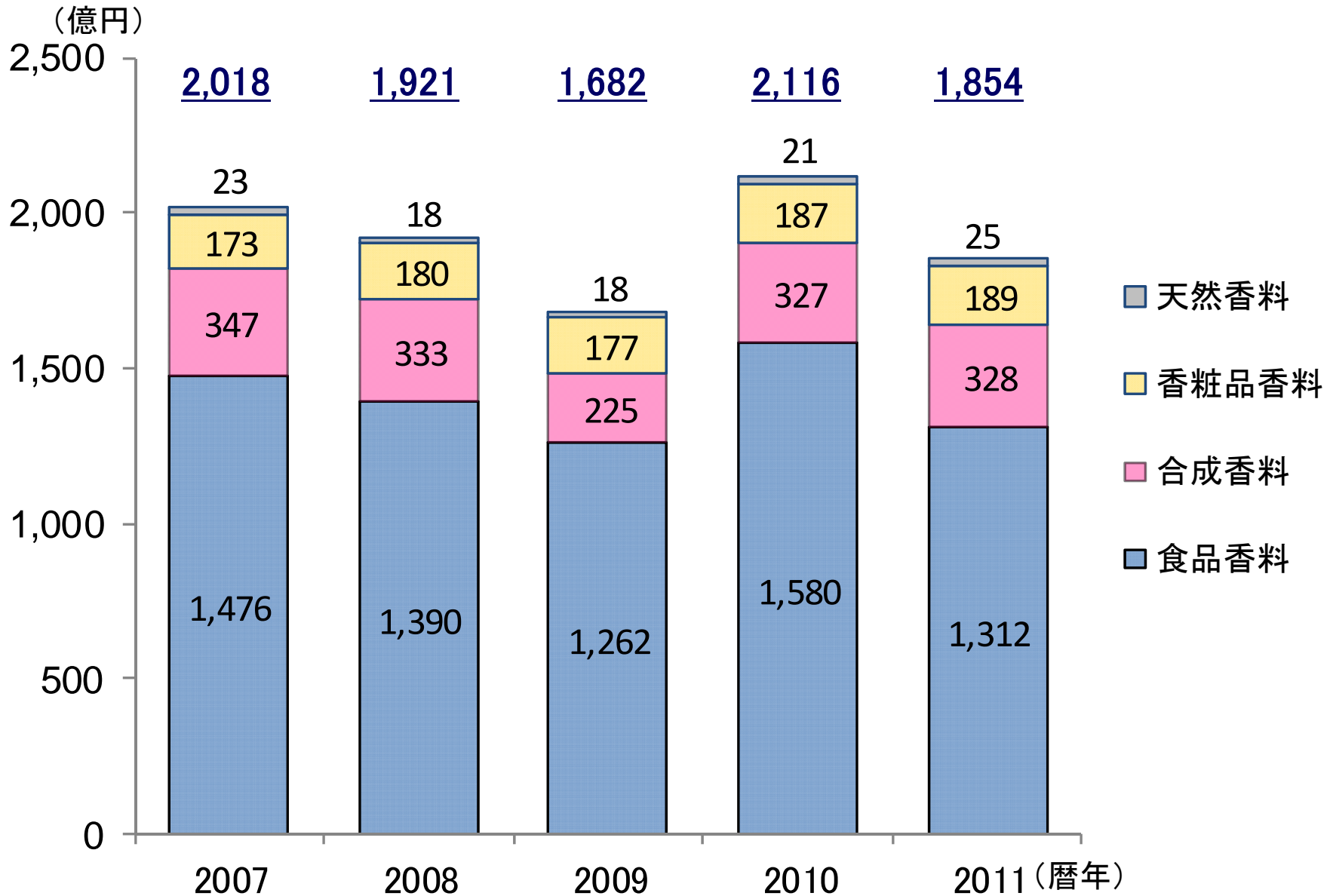
- ・ラクトン類、大環状ムスク等のフレグランス・フレーバー素材
- ・ガス着臭剤（都市ガス・LPG用）
- ・化成品（電子材料用、医薬・農薬中間体等）



Ⅱ. 国内香料市場推移

国内香料市場推移(製造ベース)

(日本香料工業会 香料統計より)



Ⅲ. 2012年3月期 連結決算概要

連結損益計算書の概要(前期比)

(億円)

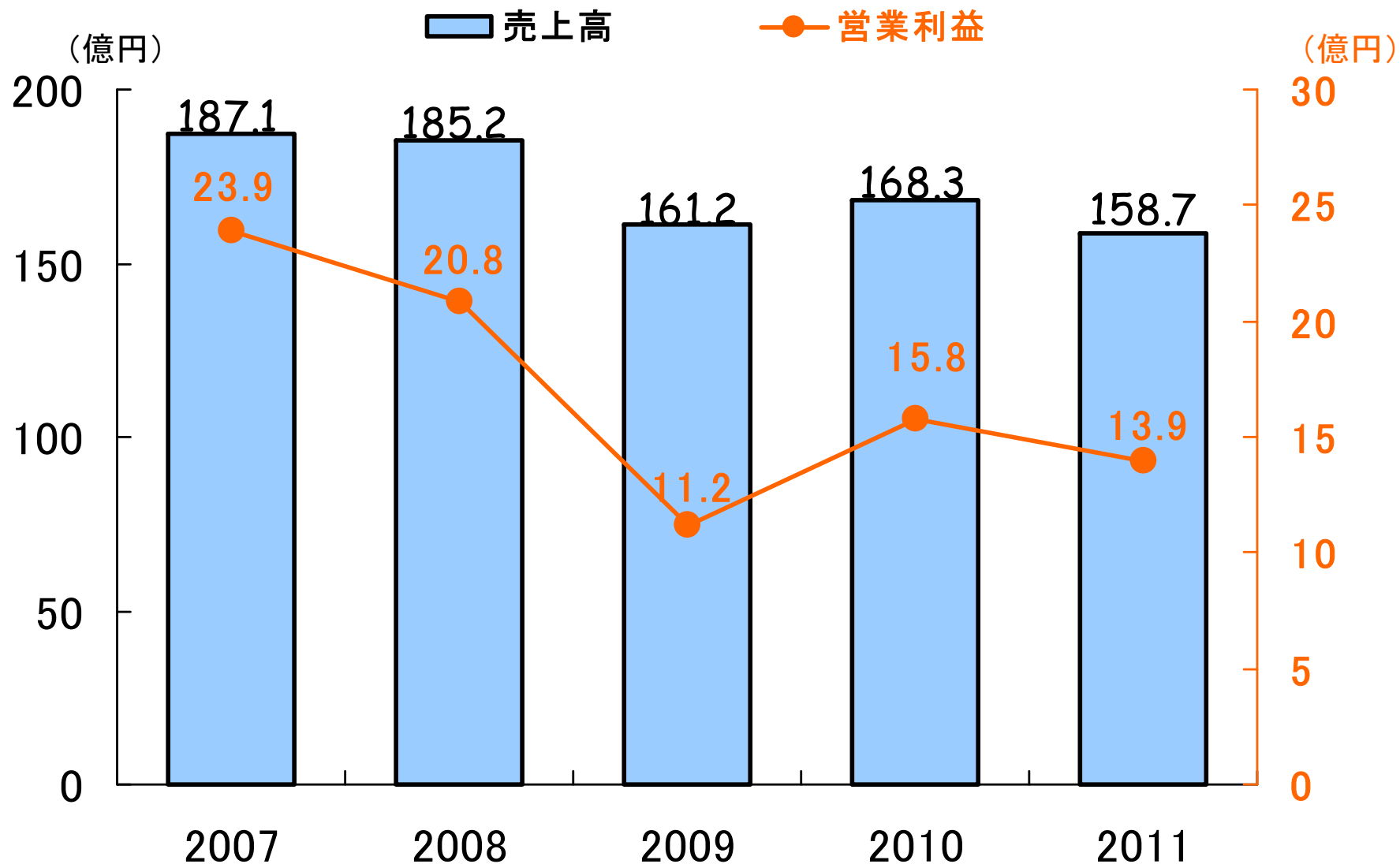
	前期		当期		増加率	
	2011/3	構成比 (%)	2012/3	構成比 (%)	金額	%
売上高	168.3	100.0	158.7	100.0	▲ 9.6	▲ 5.7
売上原価	114.4	68.0	107.1	67.5	▲ 7.3	▲ 6.4
売上総利益	53.9	32.0	51.6	32.5	▲ 2.3	▲ 4.3
販管費	38.1	22.6	37.7	23.8	▲ 0.4	▲ 1.0
営業利益	15.8	9.4	13.9	8.8	▲ 1.9	▲ 12.2
経常利益	15.2	9.1	13.9	8.8	▲ 1.3	▲ 8.8
当期純利益	9.3	5.5	6.9	4.4	▲ 2.4	▲ 25.1

【売上高】合成香料、フレーバーの売上高減少により前期比9.6億円減。

【営業利益】売上高減少により前期比1.9億円減。

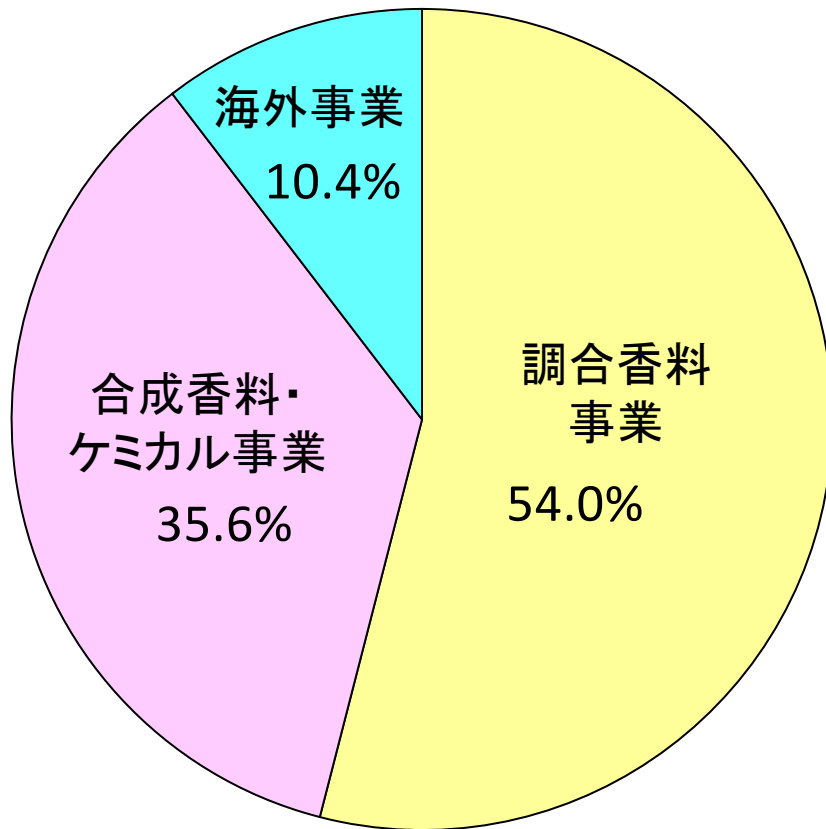
【当期純利益】法定実効税率の変更による税金費用の増加もあり、前期比2.4億円減。

売上高・営業利益推移

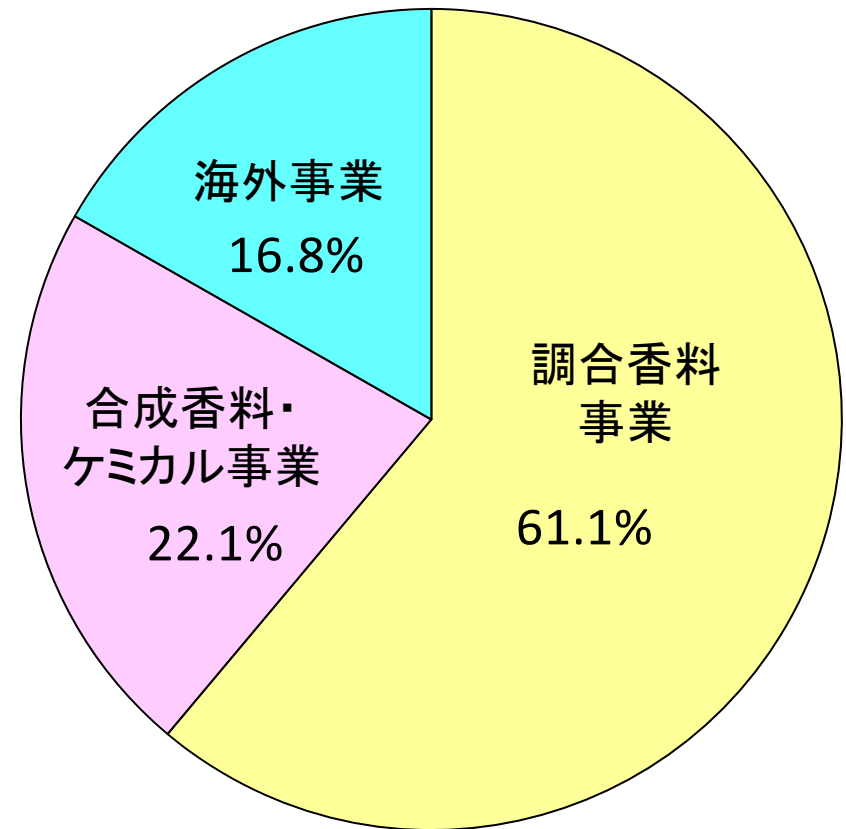


セグメント別構成比率（2012年3月期業績）

売上高



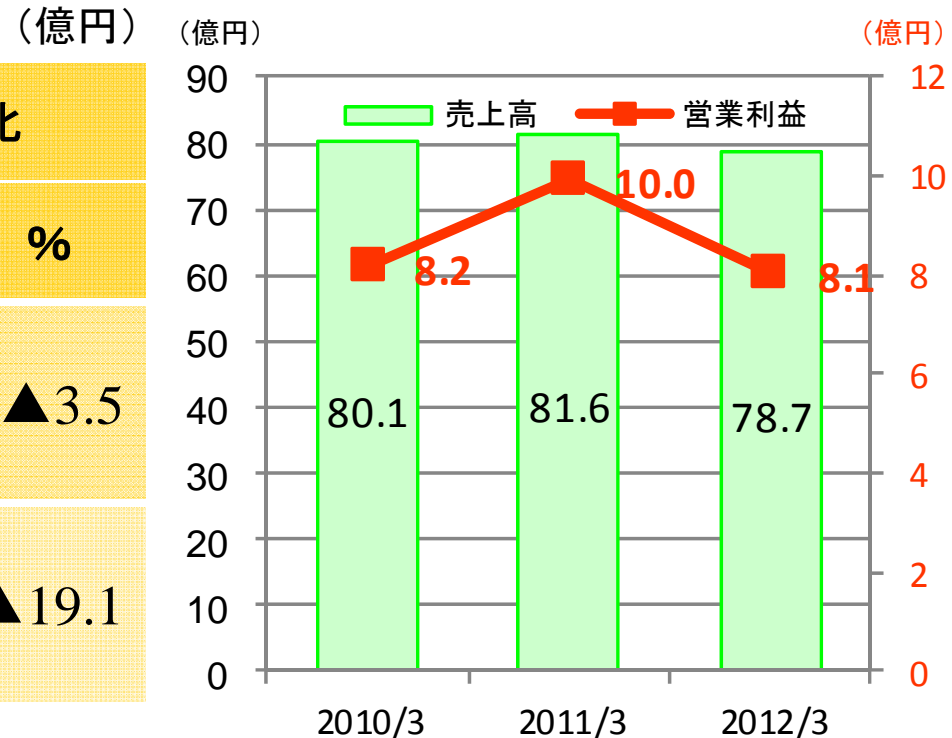
営業利益



注：セグメントの合計には3セグメントの合計値以外の数値は含まれておりません。

セグメント別概況(調合香料事業)

	前期 2011/3	当期 2012/3	前期比	
			金額	%
売上高	81.6	78.7	▲2.9	▲3.5
営業利益	10.0	8.1	▲1.9	▲19.1



【フレグランス(化粧品香料)】

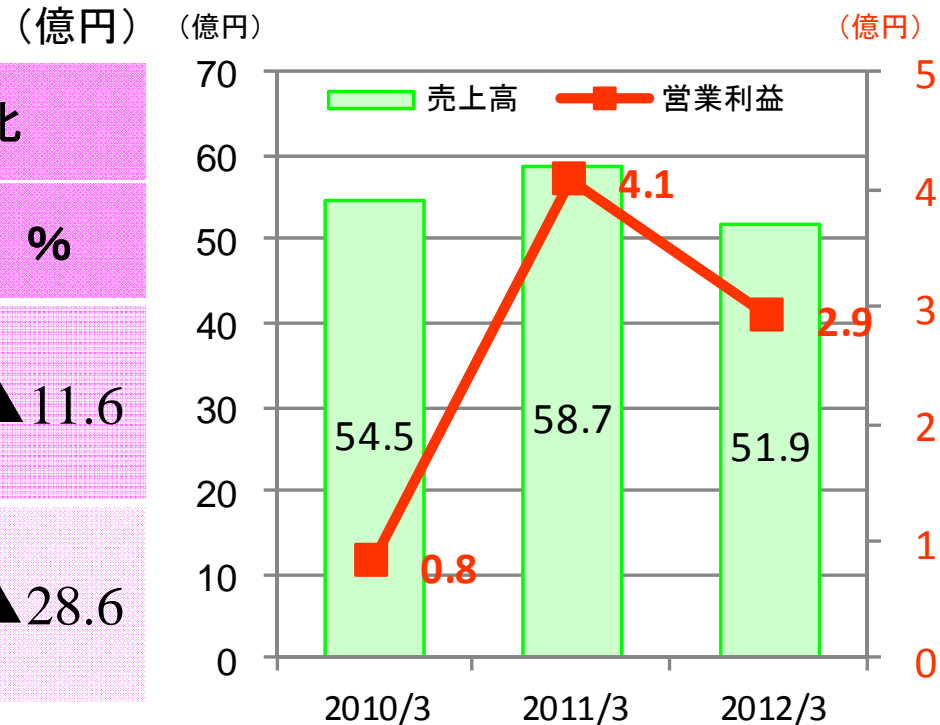
- ・シャンプー用香料を中心に売上高増加

【フレーバー(食品香料)】

- ・夏場後半の天候不順や震災・原発事故の影響により売上高減少

セグメント別概況(合成香料・ケミカル事業)

	前期 2011/3	当期 2012/3	前期比	
			金額	%
売上高	58.7	51.9	▲6.8	▲11.6
営業利益	4.1	2.9	▲1.2	▲28.6



【合成香料】

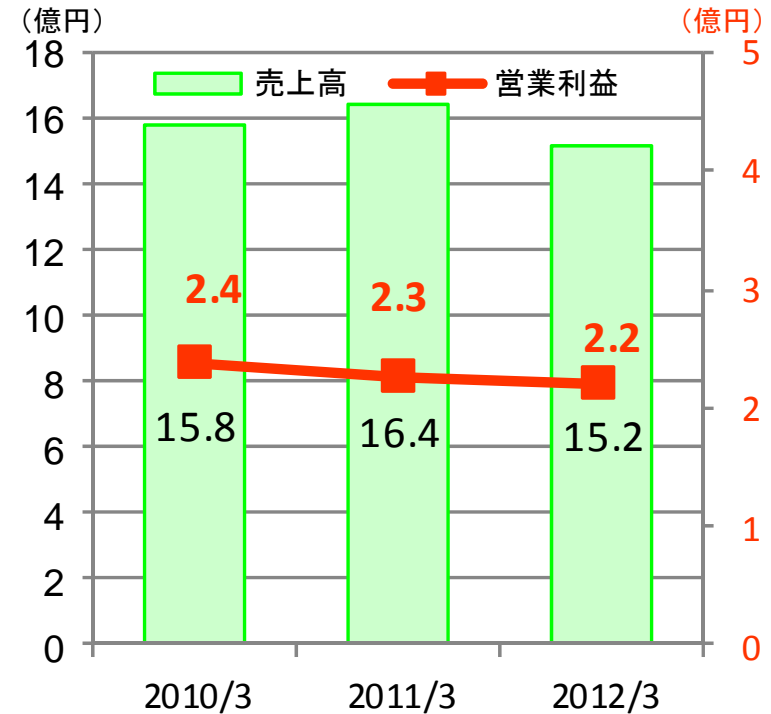
- ・輸出が中心であるため、急激な円高、海外経済の減速、原発事故の影響等により売上高が大きく減少

【ケミカル】

- ・医薬・農薬中間体を中心に売上高増加

セグメント別概況(海外事業)

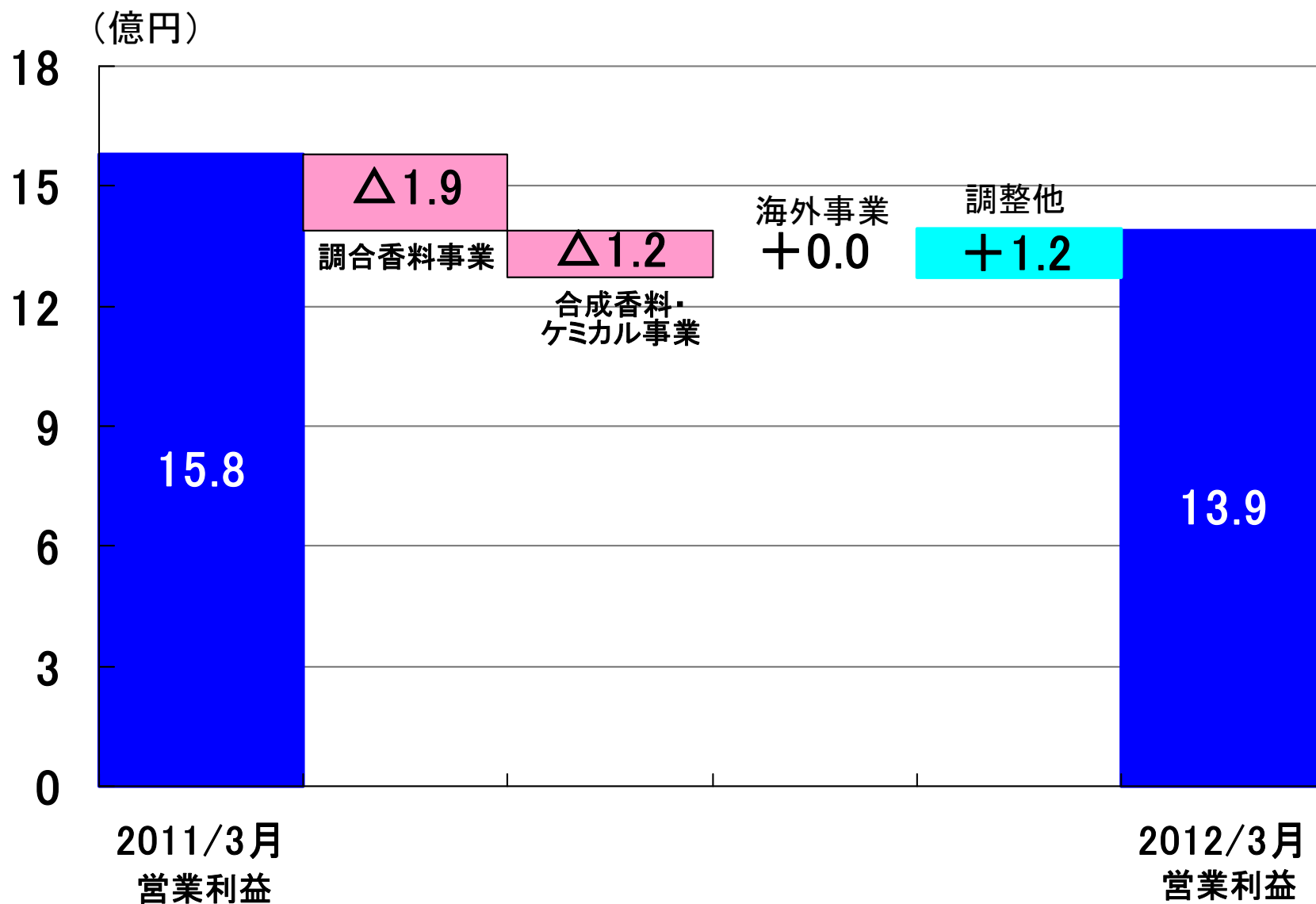
	前期 2011/3	当期 2012/3	前期比	
			金額	%
売上高	16.4	15.2	▲1.2	▲7.4
営業利益	2.3	2.2	0.1	▲1.8



【海外事業】

- ・中国の飲料市場の低迷(物価上昇、天候不順、可塑剤混入問題)による飲料用フレーバーの売上減を主因に前期比減収

営業利益増減要因



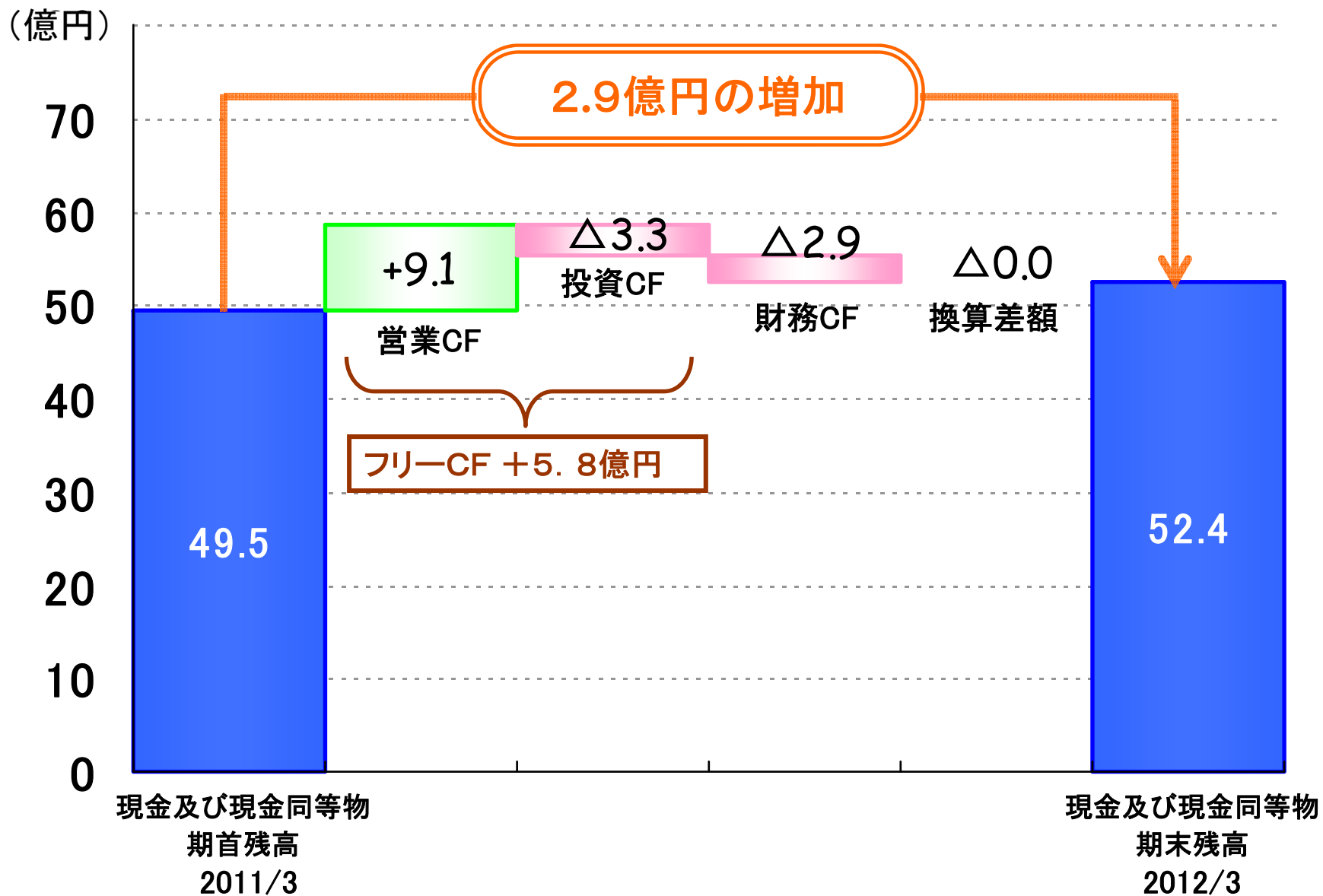
連結貸借対照表の概要

(億円)

	2011/3	2012/3	増減
総資産	188.6	191.6	+3.0 (+1.6%)
純資産	130.4	136.1	+5.8 (+4.4%)
自己資本比率	67.9 %	69.7 %	+1.8 ポイント
1株当たり純資産	1,281.25円	1,336.40円	
自己資本当期純利益率	7.4 %	5.3 %	▲2.1 ポイント

設備投資	3.1	4.0	研究開発設備を中心に増。
減価償却費	6.1	5.6	
研究開発費	9.4	9.7	

キャッシュ・フローの概要



東日本大震災の影響

〈状況〉

- ・ 非常時におけるサプライチェーンの確保が顧客の重要課題となっている。
- ・ フレーバー製品の主力工場である郡山工場が原発より63Kmにあり、一部顧客より、今後の製品の安定供給と安全性確保が期待されている。
- ・ 放射能問題により海外の一部顧客への合成香料、フレーバー製品の輸出が減少。

〈対策〉

- ・ 製品の放射能測定による安全性の証明
- ・ 外注委託生産、首都圏及び関西圏での社外倉庫の確保
- ・ 一部海外顧客への放射能問題対応として、台湾曾田、曾田香料(昆山)への生産移管
- ・ 郡山工場以外の自社工場も含めたフレーバーの第2生産拠点の検討

IV. 2013年3月期 連結通期業績予想

2013年3月期 連結通期業績予想

(億円)

	2012/3	2013/3 (予想)	増加率
売上高	158.7	159.0	0.2%
営業利益	13.9	14.0	0.7%
経常利益	13.9	13.8	▲0.7%
当期純利益	6.9	8.5	22.5%
1株当たり 当期純利益	69.40 円	85.03 円	
配当	14.00 円	14.00 円	

- ・調合香料と海外事業(中国)の売上増を見込む。
- ・合成香料・ケミカルは合成香料の厳しい事業環境(円高、海外経済の減速)の継続等により売上減を見込む。

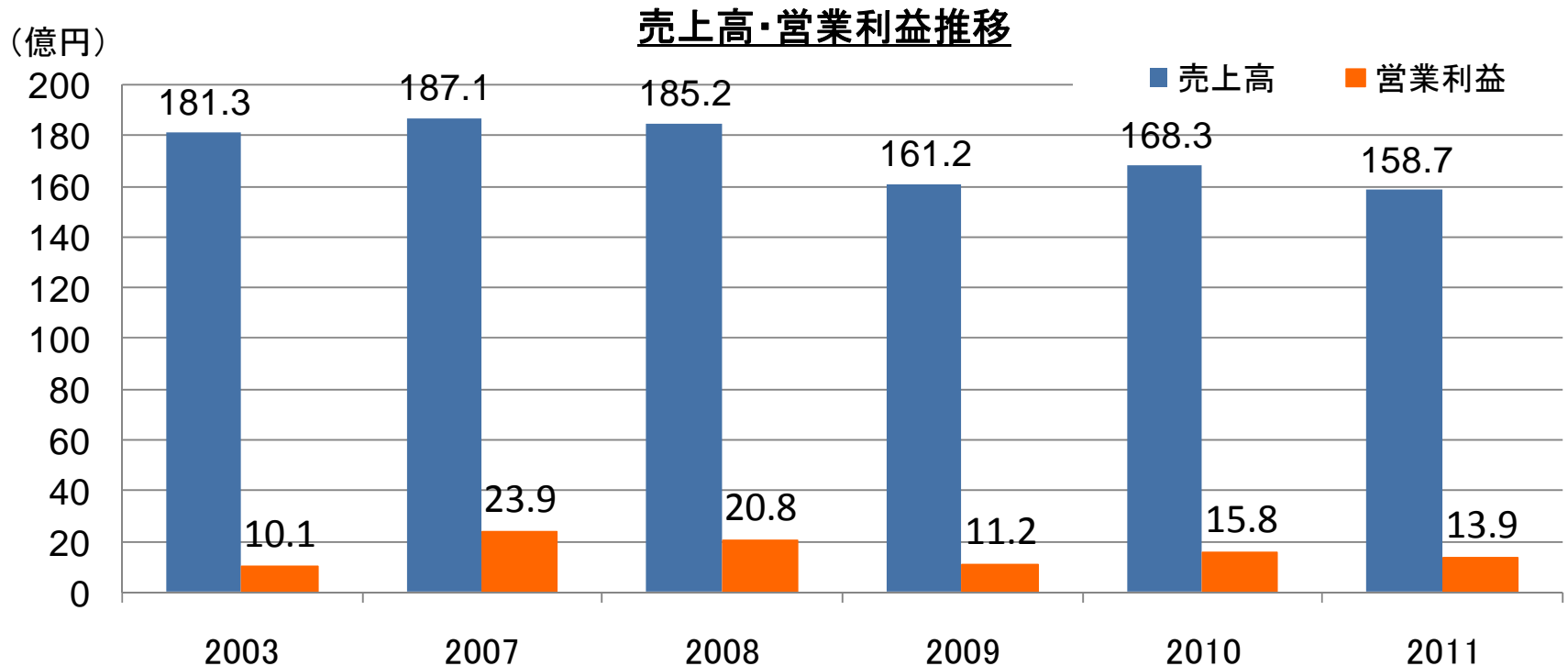
V. 中期経営課題について (2012年度～2014年度)

中期経営課題(2012~2014年度)

前中期経営課題(H21~H23年度)

リーマンショック後の世界不況克服を第一とした上で、

事業収益の拡大に再チャレンジできる事業体質と事業構造の構築



中期経営課題(2012~2014年度)

1. 事業環境

調合香料事業

- ・国内は、調合香料使用製品の主要購買層である若年層の減少、低価格志向等の環境下、市場規模は横ばいもしくは漸減傾向。
- ・海外は、中国香料市場は今後も成長が予想される。

合成香料・ケミカル事業

- ・輸出が中心の合成香料は歴史的な円高、競争激化と欧州を中心とした海外経済の減速により厳しい環境にある。

中期経営課題(2012~2014年度)

中国市場環境

中国香料市場(生産金額ベース)は2009年(億円)で約2,080億円と日本市場を超えており、生産量では約4倍(フレーバーは2倍)となっている。

中国のフレーバー市場は、生活水準の向上や欧米化に伴い、今後も確実に成長することが予想される。

香料市場 ()内はフレーバー

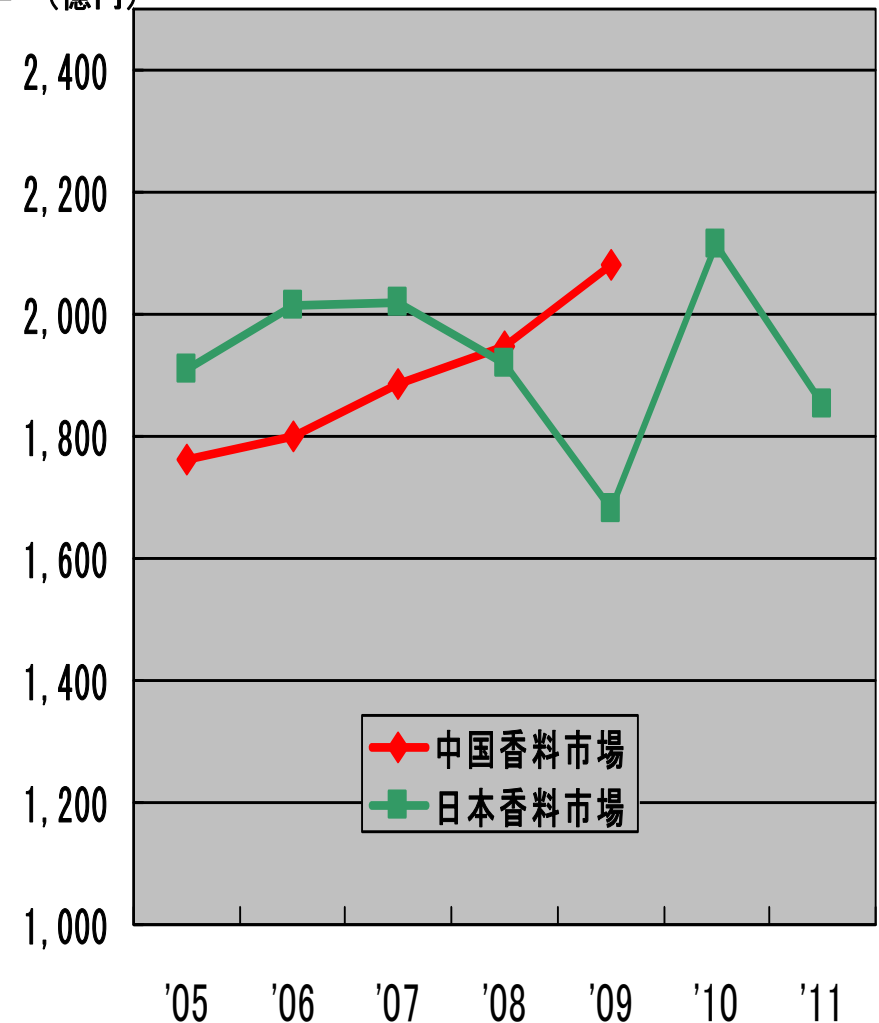
2008年

- ・中国: 27.0万トン(10.0万トン) 1,950億円
- ・日本: 8.0万トン(5.8万トン) 1,921億円

2009年

- ・中国: 28.8万トン(11.0万トン) 2,080億円
- ・日本: 7.3万トン(5.5万トン) 1,682億円

中国・日本香料市場規模推移



中期経営課題(2012~2014年度)

2. 基本方針

新中期経営課題('12~'14年度)基本方針

成長地域・成長分野
での事業拡大

事業収益構造の悪化に
対応した事業運営方針
の策定

基本戦略

成長地域＝新興国(中国・アジア)
での事業拡大

成長分野＝フレーバー事業の強化

基本戦略

合成香料・ケミカル事業の強化

中期経営課題(2012~2014年度)

成長地域:新興国(中国・アジア)での事業拡大

中国事業(曾田香料(昆山))の強化・拡大

- ・ フレーバーを中心に伸長が期待できる中国市場での事業拡大を図るべく日本曾田の「製品開発力、生産・技術力、品質管理」と台湾曾田の営業力(人脈)を結集して同事業を推進。
- ・ フレグランス製品についても、ユーザーからの現地生産の要請に応えるべく現地生産を推進。

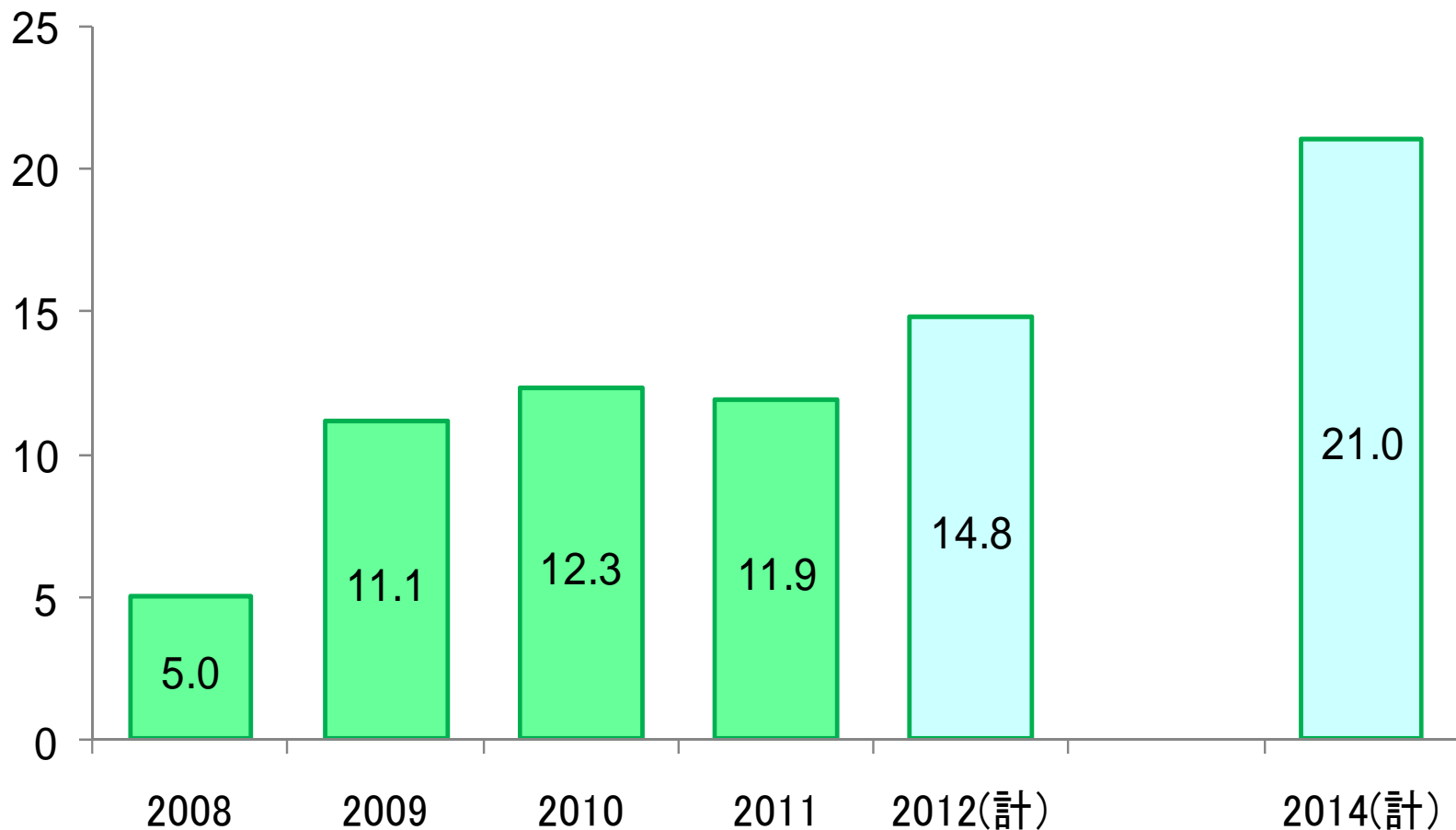
アジア地域の事業戦略構築

- ・ タイ、ベトナム等のアジア地域については、これまでの活動を踏まえ、当該地域における営業・事業戦略を立案。
- ・ 低価格である同地域に対応すべく、台湾曾田や曾田香料(昆山)を生産拠点とした事業戦略を検討、構築。

中期経営課題(2012~2014年度)

成長地域:新興国(中国・アジア)での事業拡大

曾田香料(昆山)の売上高推移と今後の計画(億円、換算レート12.5円/人民元)



中期経営課題(2012~2014年度)

成長分野:フレーバー事業の強化・拡大

国内シェアアップ

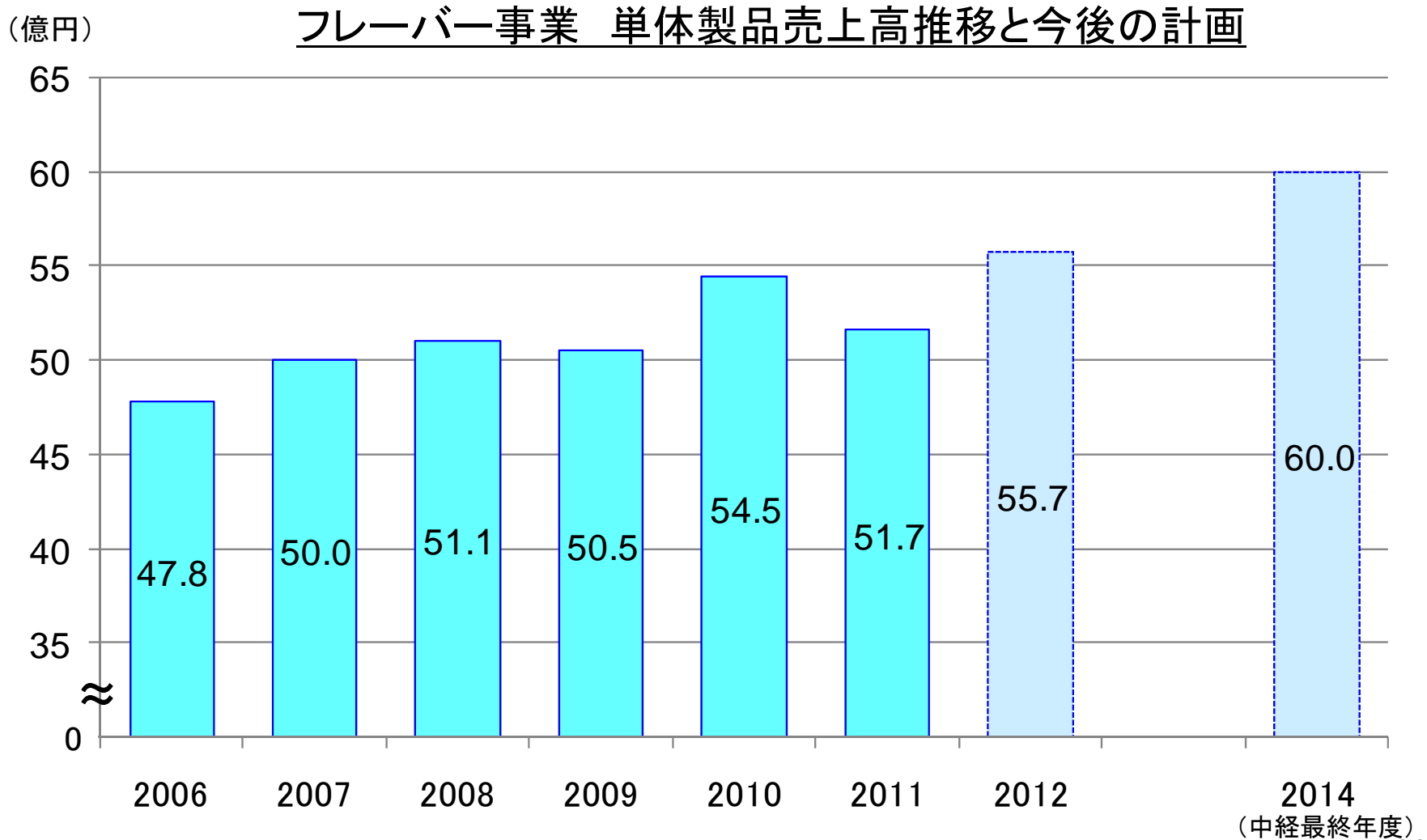
- ・ 前中期経営課題に引き続き、得意分野の飲料用香料の拡大と市場規模は大きいが開拓不十分な製菓、セイボリー分野に注力する。
- ・ 営業戦力の拡充、差別化・新素材等の研究開発を強化する。

BCP対応、第2生産拠点の確保

- ・ 非常時におけるサプライチェーンの確保が顧客の重要課題となっており、一部顧客から要請されている原発遠隔地での外注委託生産や第2生産拠点の確保を検討、実行する。

中期経営課題(2012~2014年度)

成長分野:フレーバー事業の強化・拡大



中期経営課題(2012~2014年度)

合成香料・ケミカル事業の強化

合成香料事業

- ・ デルタラク톤の欧米市場における販売量回復。
- ・ 当社の特品ラク톤の拡販。
- ・ デルタラク톤、大環状ムスクの市場価格に対応した徹底的コストダウンの推進。
- ・ 新規生産アイテムの探索。

ケミカル事業

- ・ 受託事業のコスト競争力強化、最適事業規模の見極め。

中期経営課題(2012~2014年度)

3. 数値目標

(億円)

	2012/3	2013/3 (予想)	2015/3 目標値
売上高	158.7	159.0	180億円以上
営業利益	13.9	14.0	20億円以上
営業利益率	8.8%	8.8%	11%以上
自己資本 当期純利益率	5.3%		8%以上

本資料中の2013年3月期業績予想、見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ

曾田香料株式会社
経営企画管理部

TEL : 03-5645-7340 (代)

FAX : 03-3668-6289 (代)